

働きながら最先端の知識と研究能力を修得する

生活と学問を結ぶあなたの大学院

人間総合科学大学大学院

こころ・からだ・食

心身相関の探究



人間総合科学研究科

心身健康科学専攻

通信制

修士課程.....P.4

博士後期課程..... P.6

臨床心理学専攻

通信制

修士課程P.8

健康栄養科学専攻

通学制

修士課程P.10



本冊子は概要紹介となります。
詳しくはホームページをご覧ください。

<http://www.human.ac.jp>

文部科学省認可

Guide Book

学長挨拶：新しい学問領域の創造

人間に関わる多様で複雑な問題に対し、統合的・先端的な研究アプローチを

最近、情報技術の加速度的な発展や、AI (Artificial Intelligence) や IoT (Internet of Things) の登場が、ポストヒューマンの時代を創るかもしれないという予測がささやかれています。このような時代を迎えるにあたって、今、「人間」の本質をより学際的・統合的に見直す必要に迫られているのではないのでしょうか。

人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科は3専攻を有しています。心身健康科学専攻（修士・博士後期課程）では、心と身体の有機的関連性の探求から、心身の健康に関する総合的な研究を行い、社会の指導的な役割や先駆的な領域を開拓する人材を養成しています。また、臨床心理学専攻（修士課程）では、現代人の「こころ」の健康について心理臨床の知識と技術をもち、総合的な「こころの科学」の専門職の養成を図っています。健康栄養科学専攻（修士課程）では、人間の心身両面の健康と「栄養・食」とのかかわりを、ミクロ・マクロな観点から統合的に探求し、人々の健康の保持・増進を栄養・食生活の側面から解決していきます。

これら3専攻ともに、本学の特色となる「心身健康科学」をプログラムの核に据え、人間に関わる多様で複雑な問題に対し、統合的・先端的なアプローチをしています。AIやIoTが話題になっている今、これからの生涯健康や持続可能性を目指す人類にとって、心身関連の科学の重要性がより一層認識されるでしょう。



人間総合科学大学

学長 久住 武

人間総合科学研究科の研究領域



通信制の特徴

「こころ」と「からだ」のつながりを探究
 社会や文化を踏まえ、こころとからだの両側面から総合的な人間理解に向けてアプローチします。そして、心身健康科学の視点から学際的、横断的に研究し、「よりよく生きるための知恵」を創出します。

インターネットを活用して学位取得
 本学専用のポータルサイトで展開されるeラーニングシステムにより、パソコン・スマートフォン・タブレットを用いていつでもどこでも学修に取り組むことができます。

通信制大学院トップクラスの修了率
 充実した学修環境が学位取得をバックアップします。収支324名、博士31名(2017.4現在)が学位を取得し、開設以来高い修了率を維持しています。(心身健康科学専攻)

本学(修士課程)	約80.7%
他大学平均	約36%

※2014年度文部科学省基本調査報告書より

社会人学生に配慮した研究スタイル
 修士課程での研究は、社会人学生の幅広いテーマ設定に対応しています。研究の最終成果物として、新たな知見を見出す修士論文、もしくは心身健康科学に関するテーマを報告書としてまとめる特定課題研究報告書を選択することができます。(心身健康科学専攻)

すべての教員がバックアップサポート
 博士後期課程では、指導教員の他に副指導教員も指導にあたります。また、修士課程・博士後期課程のいずれもポータルサイトを介した質問や中間発表会等の機会を通して、学修・研究内容に対して全ての教員の助言とサポートを受けることができます。

通学制の特徴

養成する人材像
 健康栄養科学専攻は、病院において、チーム医療の一員として高度な栄養管理、栄養指導を行う臨床栄養領域での予防・治療に携わる人材を養成します。さらに、企業、学校、地域、諸福祉施設などでカウンセリング技法を用い、個人の栄養指導を行う人材や、それらに関連する研究・教育業務に従事する人材を養成します。

心身健康科学専攻
 通信制
 臨床心理学専攻
 健康栄養科学専攻
 通学制

建学の精神

人は、心と身体が相関しており、社会的生き物である。
 しかも、有史以来、進化発展を続けている。
 21世紀を力強く生きるためには、新しい展望と視座に立って一人一人がしっかりした価値観を持ち、
 未来を切り拓く自己決定能力と勇気を持たなければならない。
 ここに、人間をこころ・からだ・文化の面から追求し、
 学際的に総合して科学的に探究する必要がある。
 人間総合科学大学を創設し、あらたな学問の追求と統合により、
 真に人間を理解し、自立と共生の心を培い、
 活力あふれる創造性と豊かな人間性を育む。

2000年4月
 創立者 久住 眞理

【研究・教育のPOINT】

心身相関の科学の概念を学ぶ『心身健康科学特講』など本学の核となる数科目を、大学院修士課程の共通科目として、全専攻のカリキュラムに設けています。このことが領域を超えた統合的な研究活動の基礎を形成します。

専攻長挨拶

社会人だからこそ実践知・経験知を学問知へと昇華することができる

心身健康科学専攻は、人間の「心身相関」に焦点をあてて、人類の永遠のテーマである「健康」や「幸福」等の実現に貢献できる学問知を創造し、社会に発信することを目指しています。本専攻では大学院生が仕事をしながら学修・研究を継続して修了できるよう皆さんをサポートする独自のシステムを構築し、研究指導のノウハウを蓄積してきました。入学後は、豊富な経験を持った研究指導教員と皆さんが深い議論を繰り返すことで、実生活や仕事を通して日々遭遇している事象の中に、心身の健康に関わる本質的なテーマを見出して、これを斬新なアプローチで探究していきます。



人間総合科学研究科
 心身健康科学専攻 専攻長
 小岩 信義

人間への温かいまなざしを共有したい

人が他者の援助を必要とするときには、こころやからだに不具合を生じたり社会適応に困難を抱えて、傷ついたり、悲しんだり、怒ったり、苦しんだりしています。臨床心理学専攻では、そのような状態にある人々にそっと寄り添い、その人が自分の感情、思考、行動、生き方を選ぶ自律性の芽と一緒に探し、大切に守りながら、社会・文化との関係も含めた全体としてのその人なりの健康と幸せをめざす視点を持って、どっしりと構えて援助を続けることができる専門職を養成したいと思います。



人間総合科学研究科
 臨床心理学専攻 専攻長
 島田 涼子

人間総合科学研究科では人間の多角的理解に基づいた「よりよく生きる知恵」の追求を目標として掲げています。その大きな器の中で、臨床心理学専攻は、専門領域で必要とされる知識を身につけ、実践とトレーニングを通して自己理解を深め、思いやりのある臨床家を育て、ともに成長していく場となることを願っています。

食とこころの関係をさぐる

超高齢化社会は人類に突きつけられた解決すべき大きな課題です。何らかの健康上の不具合を抱えた栄養弱者に対し生きがいを持って健康寿命を達成するためには、あらゆる場面で最適な栄養摂取ができる環境を整える必要があります。「食」「栄養」「健康」に関する人々の多様な価値観の中で、「よりよく生きる」を希求し、「たべもの、たべること」の原点を根源から正しく理解し、日常の食生活に反映していくために、食物、身体、心を統合した学識、技能を修めたい専門性の高い管理栄養士が現代社会では求められています。



人間総合科学研究科
 健康栄養科学専攻 専攻長
 桑田 有

このようなニーズに応えるため、心身相関の基本的概念を基に、人間理解力に長け、実践力を有する人材の育成を目指しています。

心身健康科学専攻【通信制】

教育研究上の目的

「こころ」と「からだ」の有機関連性を考究し、心身の健康に関する専門知識を総合的に教授研究し、「生きる力」としての、洞察力、探究力、問題解決力、創造力を育み、研究の徒となり得る人材、社会において指導者的役割を果たす人材を育成します。

カリキュラム

科目履修・研究のスタートとして、「こころ」と「からだ」の有機関連性の理解を深めるために、研究科の根幹(コア)といえる「心身健康科学特講」、その他「心身健康科学特論Ⅰ」「心身健康科学特論Ⅱ」「心身健康科学特論Ⅲ」の4科目を履修(1年次必修)します。また、選択必修科目および選択科目は20科目が開設され、各自の研究を進めていくうえで必要な科目を履修します。1年次または2年次に選択必修科目を2科目以上、選択科目を4科目以上選択し、履修します。

区分	科目名	配当年次	開講時期	履修方法	単位数
コア科目(必修)	心身健康科学特講	1	前期	T・S	2
必修科目	心身健康科学特論Ⅰ	1	前期	M	3
	心身健康科学特論Ⅱ	1	後期	M	3
	心身健康科学特論Ⅲ	1	後期	M	3
選択必修科目 (6単位以上)	健康科学・疫学特講	1・2	後期	M	3
	生命文化特講	1・2	前期	M	3
	高次脳機能学特講	1・2	後期	M	3
	心身機能観察特講Ⅰ	1・2	後期	T・S	3
	心身機能観察特講Ⅱ	1・2	前期	T・S	3
	心身機能観察特講Ⅲ	1・2	後期	T・S	3
	健康科学・疫学特講	1・2	後期	T	2
選択科目 (8単位以上)	ストレス学特講	1・2	後期	T	2
	認知脳科学特講	1・2	前期	T	2
	ライフサイクルと健康特殊講義	1・2	後期	T	2
	心身免疫学特殊講義	1・2	前期	T	2
	精神分析特講	1・2	後期	T	2
	比較文化特講	1・2	前期	T	2
	健康文化論特殊講義	1・2	前期	T	2
	発達心理学特論	1・2	後期	T	2
	心身医学特論	1・2	前期	T	2
	老年心理学特論	1・2	前期	T	2
	健康栄養学特殊講義	1・2	前期	T	2
	食文化特講	1・2	後期	T	2
	文化人類学特講	1・2	前期	T	2
	応用健康科学特講	1・2	後期	T	2
	国際保健学特殊講義	1・2	後期	T	2
研究指導(必修)	心身健康科学研究Ⅰ	1	通年	R	3
	心身健康科学研究Ⅱ	2	通年	R	3

修了要件	休学、停学期間を除いて2年以上在学し、次のとおり授業科目について31単位以上修得し、かつ修士論文または特定の課題についての研究の成果の審査を通過し最終試験に合格すること。			
1	コア科目(必修)	2単位	4	8単位以上
2	必修科目	9単位	5	6単位
3	選択必修科目	6単位以上		

T: テキスト履修 M: メディア履修 T・S: テキスト履修+スクーリング EX: 演習(テレビ会議セミナー)
R: オンライン指導+面接指導

※本課程で使用される言語は基本的に日本語ですが、同一の学修・研究を英語にて進める学位プログラムも提供しています。
※カリキュラムは2017年4月現在のものであり、変更する場合があります。

授業 Pick Up

必修 心身健康科学特講

心身健康科学という学問の全体像を把握し、それにもとづく修士課程での学修と各自の研究の位置づけを見出すことができますようにします。

必修 心身健康科学特論Ⅰ

心と身体の有機関連な相互関係を心身相関といいますが、この科目では脳と脳の活動を支える身体機能の基本的な仕組みや心身相関の神経科学的な仕組みについてオンラインにて学びます。

必修 心身健康科学特論Ⅱ

心身健康科学の研究を進めるために必要となる研究方法や統計解析手段の基本的な考え方をオンラインと教材を用いたディスカッションを行いながら学びます。他者の研究の優れた点や問題点を評価する力を養います。

必修 心身健康科学特論Ⅲ

各自の研究計画の中に心身健康科学の視点・考え方をどのように入れていくかについてオンラインと教材を用いたディスカッションにより考えます。

選択必修 健康科学・疫学特講

疫学は人間集団が遭遇する健康問題をどのように理解し対処するかに関する知識と実践の体系のひとつです。この健康科学の方法論の1つである疫学についてその歴史や研究方法について学修します。

選択必修 生命文化特講

先端医療技術の発展は臓器移植、再生医療などに進歩をもたらしましたが、同時に多くの生命倫理上の問題も生み出しています。生命科学、医学、心身健康科学の知識と理解のもと法学的、哲学的、倫理的な視点から生命倫理について探究します。

選択必修 高次脳機能学特講

人は自分自身を含めた周囲の「環境」を理解し、今までの知識や経験をもとに適切な行動を判断し、実行します。この知的・認知能力を可能とする脳神経機構について、最新の脳神経科学研究の成果を参考に学修します。

選択必修 心身機能観察特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

心身の有機関連性に対する理解を深めるため、実験・観察を通して、ストレス刺激に対するヒトの自律神経反応やバイオマーカーの変化、脳活動などを観察します。

コア科目(全専攻修士課程共通科目)

博士後期課程及び全専攻修士課程との共通科目

博士後期課程及び臨床心理学専攻との共通科目

博士後期課程との共通科目

健康栄養科学専攻との共通科目

臨床心理学専攻との共通科目

博士後期課程及び健康栄養科学専攻との共通科目

修士課程

入学から修了まで

テキスト履修 (T)

テキスト履修では単位を修得するために「自宅学修 → 課題レポート提出および他の学生とのオンラインでの意見交換 → 科目修了試験」の順に学修を行います。また、科目修了試験は会場講義形式ではなく、オンラインでレポートを提出します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

レポート提出 (複数回)
オンラインでの意見交換

科目修了試験

合格後 単位認定

メディア履修 (M)

メディアを使った履修では、テキスト履修とビデオ履修を並行して実施します。ビデオ履修ではVOD (Video On Demand) により学修を進めます。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

レポート提出 (複数回)
オンラインでの意見交換
VODによるビデオ履修

科目修了試験

合格後 単位認定

テキスト履修+スクーリング履修 (T・S)

「心身健康科学特講」(必修)と実験実習科目(選択必修)では、テキスト履修に加えてスクーリング(対面式授業)を受講します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

レポート提出 (複数回)
オンラインでの意見交換

対面式授業

科目修了試験

合格後 単位認定

研究指導 (R)

修士課程では、年間5回(2年間で10回)の面接指導(合同ディスカッションを含む)のほか、中間報告会の発表を通して修士論文または特定課題研究報告書を完成させます。

1年次

2年次

指導教員
決定

研究テーマ
の決定

研究
中間報告

研究中間
報告会

修論が特定
課題研究
報告書かの
選択

研究成果
提出

・審査
・口頭試問

院内
発表会

研究テーマ例

- 修士論文
- 職業性ストレス及び心身健康度が労働パフォーマンスに及ぼす影響
 - 訪問看護師の職業性ストレスと心身の健康
 - 高校男子サッカー選手における運動時心拍数と自覚的な体調および心理状態との関連
 - 作業療法臨床実習指導者の分野別によるストレスの分析
- 特定課題研究
- 「差異」の捉え方からみた健康観と健康問題の対策に関する一考察
 - 看護業務による疲労と交代勤務が衝動性制御に与える影響
 - 特別養護老人ホームにおける看取りに対する介護職員姿勢
 - 慢性腎臓病患者における病態と食事療法の心理的不安感

詳しくは、ホームページをご参照下さい。



<http://www.human.ac.jp/mh/>

修了・学位授与 修士 (心身健康科学)

心身健康科学専攻【通信制】

教育研究上の目的

「こころ」と「からだ」の有機的関連性を支える法則性について深い学識と高度な研究遂行能力とを養い、学際的・統合的な視点と姿勢をもって自立して研究活動のできる人材と、社会において先駆的な領域を開拓できる人材を養成します。

カリキュラム

1年次には、必修科目である「心身健康科学特殊講義」を履修し、心身健康科学における心身関連の科学、健康科学、統合・学際領域という研究深化の視点を養うとともに、院生の研究テーマにつなげる端緒を導きます。「心身健康科学特殊演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」はテレビ会議システムを使用するセミナーです。選択科目は12科目開設され、各自の研究テーマに応じ、科目を履修します。

区分	科目名	配当年次	開講時期	履修方法	単位数
必修科目	心身健康科学特殊講義	1	前期	T・S	2
	心身健康科学特殊演習Ⅰ	1	通年	EX	2
	心身健康科学特殊演習Ⅱ	2	通年	EX	2
	心身健康科学特殊演習Ⅲ	3	通年	EX	2
選択科目（2単位以上）	健康増進科学特殊講義	1・2	前期	T・S	2
	科学哲学特殊講義	1・2	後期	T・S	2
	心身医学特論	1・2	前期	T	2
	生命文化特講	1・2	前期	M	3
	心身免疫学特殊講義	1・2	前期	T	2
	認知脳科学特講	1・2	前期	T	2
	神経内分泌機能学特殊講義	1・2	後期	T	2
	健康栄養学特殊講義	1・2	前期	T	2
	ライフサイクルと健康特殊講義	1・2	後期	T	2
	健康文化論特殊講義	1・2	前期	T	2
	発達心理学特論	1・2	後期	T	2
	老年心理学特論	1・2	前期	T	2
	国際保健学特殊講義	1・2	後期	T	2
研究指導（必修）	心身健康科学特別研究指導Ⅰ	1	通年	R	2
	心身健康科学特別研究指導Ⅱ	2	通年	R	2
	心身健康科学特別研究指導Ⅲ	3	通年	R	2

修了要件	休学、停学期間を除いて3年以上在学し、次の通り授業科目について必修科目を含め16単位以上を修得し、かつ博士論文の審査を通過し最終試験に合格すること。
1	必修科目 8単位
2	選択科目 2単位以上
3	研究指導科目 6単位

全専攻修士課程との共通科目

心身健康科学専攻修士課程との共通科目

心身健康科学専攻修士課程及び臨床心理学専攻との共通科目

心身健康科学専攻修士課程及び健康栄養科学専攻との共通科目

T：テキスト履修 M：メディア履修 T・S：テキスト履修＋スクーリング

EX：演習（テレビ会議セミナー） R：オンライン指導＋面接指導

※カリキュラムは2017年4月現在のものであり、変更する場合があります。

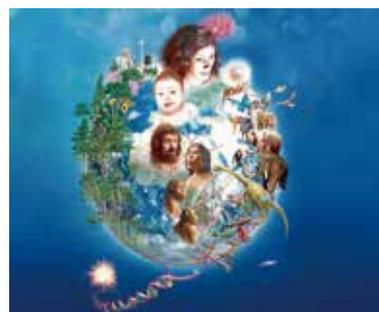
授業 Pick Up

必修 心身健康科学特殊講義

心身健康科学という専門領域の特徴を活かした研究課題と計画を考究し、心身相関の現象を観察する上で必要となる実験・調査研究方法と解析手法を理解し活用できるよう学修を進めます。そして、心身健康科学の立場から仮説を立てて実験・調査研究のモデルを立案する能力を養います。

必修 心身健康科学特殊演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

学生と教員によるインターネットを利用したセミナー（テレビ会議）です。博士レベルの心身健康科学研究を実施するために必要となる独創的かつ科学的な研究遂行能力を修得することを目的とし、Ⅰでは自らの研究遂行に必要な国内外の文献の読解力向上と文献検索力、問題発見能力、プレゼンテーション能力を養います。Ⅱ・Ⅲでは学生各自の研究計画や進捗状況を発表し、学生間および教員間でディスカッションを行います。



博士後期課程

入学から修了まで

テキスト履修 (T)

P5 流れ図参照

テキスト履修では単位を修得するために「自宅学修 → 課題レポート提出および他の学生とのオンラインでの意見交換 → 科目修了試験」の順に学修を行います。また、科目修了試験は会場講である形式ではなく、オンラインでレポートを提出します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

メディア履修 (M)

P5 流れ図参照

メディアを使った履修では、テキスト履修とビデオ履修を並行して実施します。ビデオ履修ではVOD (Video On Demand) により学修を進めます。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

テキスト履修+スクーリング履修 (T・S)

P5 流れ図参照

「心身健康科学特講」(必修)と実験実習科目(選択必修)では、テキスト履修に加えてスクーリング(対面式授業)を受講します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

演習 (EX)

演習は、大学院生と全教員を交えたテレビ会議システム(インターネットを利用)を使ったセミナーです。演習授業に参加し、総合評価(プレゼンテーションと質疑応答の内容)で合格の基準に達すると単位が認定されます。



研究指導 (R)

博士課程後期課程では、月1回の個別面接指導のほか、必要に応じて随時面接指導、オンラインでの個別指導が実施されます。



※研究指導教員・副指導教員の決定

研究テーマ例

- 食事における n-6/ n-3 系多価不飽和脂肪酸の摂取比率が大学生の心理的ストレス反応に及ぼす影響
- 救急医療現場における多様な業務が看護師の心身に与える影響
- カックアップ装具のデザインに求められる要素の検討 - 一支持部の長さを使いやすさの関連について -
- 慢性腰痛の表面筋電図の特徴と心理社会的要因の関係 - 表面筋電図の筋活動パターンを中心に -
- 透析患者の適切なたんぱく摂取量の検討 - 心身健康科学の視点から -

詳しくは、ホームページをご参照下さい。



<http://www.human.ac.jp/mh/>

修了・学位授与 博士 (心身健康科学)

臨床心理学専攻【通信制】

- ・臨床心理士第1種指定校
- ・公認心理師受験資格

教育研究上の目的

「こころ」と「からだ」の有機連性の科学的・統合的視点から追究し、高度で専門的な知識及び技術をもち、現代人の心身の健康の保持、増進に寄与するとともにまた心理的問題の研究とその予防・改善のための援助を实践できる人材を育成します。

カリキュラム 2017年4月現在のものになります

必修科目として、「こころ」と「からだ」有の機動的関連性を理解するために「心身健康科学特講」を履修します。また、心理臨床家としての基礎知識や技能を修得するために「臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ」「臨床心理面接特論Ⅰ・Ⅱ」「臨床心理査定演習Ⅰ・Ⅱ」「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」「臨床心理実習Ⅰ・Ⅱ」を履修します。さらに、選択科目の受講を通して、医療・教育・司法・福祉・産業などの領域で求められている専門性を高めます。

区分	科目名	配当年次	開講時期	履修方法	単位数	
コア科目	心身健康科学特講	1	前期	T・S	2	
基礎分野科目	認知脳科学特講	1	前期	T	2	
	ストレス学特講	1	後期	T	2	
	臨床心理学特論Ⅰ	※1	1 前期	M・S	2	
	臨床心理学特論Ⅱ	※1	1 後期	M・S	2	
	臨床心理職関連行政・倫理特論※4	1	後期	T	2	
	臨床心理面接特論Ⅰ	※1	1 前期	M・S	2	
	臨床心理面接特論Ⅱ	※1	1 後期	M・S	2	
	臨床心理査定演習Ⅰ	※1	1 前期	S	2	
	臨床心理査定演習Ⅱ	※1	1 後期	S	2	
	臨床心理学研究法特論	※2	1 前期	T・S	2	
援助技法科目	心理統計法特論	※2	1 後期	M	2	
	カウンセリング特論	※6	2 前期	M	2	
展開分野科目	心身医学特論	※5	2 前期	T	2	
	精神医学特論	※5	3 前期	M	2	
	学校臨床心理学特論	※6	3 前期	M	2	
	教育心理学特論	※3	3 前期	T・S	2	
	発達心理学特論	※3	2 後期	T	2	
	福祉領域	老年心理学特論	※5	3 前期	T	2
	司法矯正領域	犯罪心理学特論	※4	2 後期	M	2
	臨床心理技法科目	産業カウンセリング特論	2	後期	M	2
		人間関係学特論	※4	2・3 前期	M	2
		臨床心理援助技法論Ⅰ	※6	2 前期	S	2
臨床心理実習科目	臨床心理援助技法論Ⅱ	※6	2・3 前期	S	2	
	臨床心理援助技法論Ⅲ	※6	2 前期	S	2	
	臨床心理基礎実習Ⅰ	※1	1 後期	S	1	
	臨床心理基礎実習Ⅱ	※1	2 前期	S	1	
研究指導	臨床心理実習Ⅰ	※1	2 後期	S	1	
	臨床心理実習Ⅱ	※1	3 前期	S	1	
研究指導	臨床心理学特別研究	2・3	通年	R	6	

修了要件

休学、停学期間を除いて3年以上在学し、次の授業科目について合計24単位を含め30単位以上を修得し、かつ修士論文の審査を通して最終試験に合格すること。

- 1 コア科目 2単位 (必修)
- 2 基礎分野科目 12単位 (必修)
- 3 展開分野科目 4単位 (必修)
- 4 研究指導科目 6単位 (必修)

臨床心理士受験資格取得を希望する場合

臨床心理士受験資格取得を希望する場合は、本大学院臨床心理学専攻修士課程の修了要件に加えて、次の要件を満たしている必要があります。

1. ※1の10科目16単位をすべて修得していること
2. ※2、※3を付した科目それぞれ2科目合計4単位のうち2単位以上修得していること
3. ※4、※5を付した科目3科目合計6単位のうち2単位以上修得していること
4. ※6を付した6科目合計12単位のうち2単位以上修得していること

授業 Pick Up

必修 臨床心理面接特論Ⅰ・Ⅱ

クライアントとの出会い、契約の結び方、査定、終結などの心理面接の過程を段階を追って学修します。また、カウンセリングの枠組みやクライアントとカウンセラーの関係性において生じる心理（転移・逆転移等）について、事例を通して学修します。

必修 臨床心理査定演習Ⅰ・Ⅱ

臨床心理査定の理論について学修した上で、代表的な心理検査や知能検査の実習を行います。そして、検査の技能を身につけるだけでなく、検査結果を解釈し、所見を作成する技能も修得します。

必修 臨床心理基礎実習Ⅰ

心理臨床の専門家として必要な知識と技能を修得するために基礎的な実習、具体的にはロールプレイや試行カウンセリング等を行います。また、学内実習や学外実習を想定した倫理的配慮についての理解を深めます。



- コア科目 (全専攻修士課程共通科目)
- 博士後期課程及び全専攻修士課程との共通科目
- 博士後期課程及び心身健康科学専攻修士課程との共通科目
- 心身健康科学専攻修士課程との共通科目

- T: テキスト履修
- M: メディア履修
- T・S: テキスト履修+スクーリング
- M・S: メディア履修+スクーリング履修
- S: スクーリング履修
- R: オンライン指導+面接指導

※カリキュラムは、2017年4月現在のものであり、変更する場合があります。

詳しくは、ホームページをご参照下さい。



<http://www.human.ac.jp/cp/>

修士課程

入学から修了まで

テキスト履修 (T)

P5 流れ図参照

テキスト履修では単位を修得するために「自宅学修 → 課題レポート提出および他の学生とのオンラインでの意見交換 → 科目修了試験」の順に学修を行います。また、科目修了試験は会場講である形式ではなく、オンラインでレポートを提出します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

メディア履修 (M)

P5 流れ図参照

メディアを使った履修では、テキスト履修とビデオ履修を並行して実施します。ビデオ履修ではVOD (Video On Demand)により学修を進めます。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

テキスト履修+スクーリング履修 (T・S)

P5 流れ図参照

心理臨床に必要な知識と技能を修得するため、テキスト履修に加えてスクーリング (対面式授業)を受講します。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

メディア履修+スクーリング履修 (M・S)

心理臨床に必要な知識と技能を修得するため、メディア履修とスクーリング実習を並行して行います。科目修了試験に合格すると単位が認定されます。

レポート提出 (複数回)
オンラインでの意見交換
VODによるビデオ履修
対面式授業

科目修了試験

合格後 単位認定

「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」(S)

「臨床心理基礎実習Ⅰ・Ⅱ」「臨床心理実習Ⅰ・Ⅱ」では、学内実習と学外実習を通して心理臨床の知識と技能を段階的に身につけます。

臨床心理基礎実習Ⅰ
対面式授業による実習

臨床心理基礎実習Ⅱ
学内施設での実習

臨床心理実習Ⅰ
学内施設と
学外施設での実習

臨床心理実習Ⅱ
学内施設と
学外施設での実習

研究指導 (R)

1年次に臨床心理学における基礎知識及び研究法、心理統計の基礎・応用等を身につけ、2年次の4月に決定する指導教員が、その後2年間、研究計画の作成から修士論文の完成に至る研究を指導します。年間5回(2年間で10回)の面接指導のほか、中間報告会の発表を通して修士論文を完成させます。

2年次

指導教員決定 → 研究テーマの決定 → 研究指導

3年次

中間報告会 → 修士論文提出 → 論文審査 口頭試問 → 院内発表会

(年3回の合同ディスカッションを実施)

修了・学位授与 修士 (臨床心理学専攻)

健康栄養科学専攻【通学制】修士課程

教育研究上の目的

人間の心身両面の健康と「栄養・食」とのかかわりを科学的・統合的視点から追求し、高度で専門的な知識及び技術を持ち、個人の健康の保持・増進を栄養・食生活の側面から解決に導くことのできる、健康科学に立脚した実践的な専門的能力を有する人材を育成します。

カリキュラム

食と栄養、そして心身のメカニズムについて高度な知識を身につけ、その専門的背景を軸とした栄養指導能力・研究能力を養うための教育課程を編成しています。

区分	科目名	配当年次	開講時期	単位数	
コア科目(必修)	心身健康科学特講	1	前期	2	
必修科目	心身健康栄養学特論Ⅰ	1	前期	2	
	心身健康栄養学特論Ⅱ	1	通年	2	
	心身健康栄養学特論Ⅲ	2	前期	2	
	心身健康栄養学特論Ⅳ	2	前期	2	
選択必修科目	健康科学領域 (8単位以上)	神経・内分泌生理学特講	1	前期	2
		こころの健康特講	1	前期	2
		生命文化特講	1・2	前期	3
		心身医学特講	1・2	前期	2
		生体防御特講	1	後期	2
		抗ストレスと食事特講	1	後期	2
		生活習慣病疫学特講	1	後期	2
		食文化特講	1	後期	2
	栄養科学領域 (8単位以上)	ライフサイクル健康栄養特講	2	前期	2
		病態栄養特講	2	前期	2
		栄養療法特講	2	前期	2
		分子栄養学特講	1	前期	2
		食品学特講	1	前期	2
		共生生物学特講	2	前期	2
		食品機能学特講	1	後期	2
		国際栄養学特講	2	前期	2
研究指導(必修)	健康栄養科学研究Ⅰ	1	通年	4	
	健康栄養科学研究Ⅱ	2	通年	4	

修了要件	内容
	休学、停学期間を除いて2年以上在学し、次のとおり授業科目について32単位以上を修得し、かつ修士論文または特定の課題についての研究成果の審査を通過し最終試験に合格すること。
1	コア科目(必修) 2単位
2	必修科目 6単位
3	選択必修科目(健康科学領域) 8単位以上
4	選択必修科目(栄養科学領域) 8単位以上
5	研究指導科目(必修) 8単位

※カリキュラムは、2017年4月現在のものであり、変更する場合があります。

生活習慣病疫学特講

生活習慣病は、非感染性疾患の大部分を構成し、中でも循環器疾患による死亡は我が国において全死亡の3割以上を占めます。要介護状態となる原因疾患としては、脳卒中および近年動脈硬化危険因子との関連が明らかとなってきている認知症が半分近くを占めます。循環器疾患を含む生活習慣病の状況及びこれら疾病予防のための生活習慣修正について学びます。

授業 Pick Up

心身健康栄養学特論Ⅰ

食生活と栄養が神経・内分泌組織などの情報伝達系を介して心にかかわることの歴史的展開と近年の生体情報科学の成果を紹介し、この分野の科学を展望すべく議論を展開します。

こころの健康特講

ライフサイクル、あるいはアタッチメントをキーワードとして健康な心の発達についての基本的な考え方を学びます。さらに、具体的な事例を挙げ、心理的な問題を想像できるようになるとともに、管理栄養士としてどのようにかかわることが出来るかについて検討します。

共生生物学特講

人体を取り巻く外界に接する全ての境界には微生物が共生しており、ヒトの生体防御機能に多面的に貢献しています。代謝性臓器として腸内菌叢を位置づけ栄養素の吸収にとどまらず代謝産物の免疫機能、精神活動に及ぼす影響まで関与する多面的な作用を学修します。

栄養療法特講

多様化した栄養補給からの選択基準、およびライフステージ別の食事療法や特殊栄養としての嚥下、咀嚼など、病態にそった供食による栄養療法の知識を講じます。そして、栄養療法の概論を理解し、各施設における臨床・病態栄養士として活躍できる能力を養います。さらに、医療現場において、臨床栄養の研究及び健康・栄養管理の質向上について指導者として貢献できる人材教育を目指します。

詳しくは、ホームページをご参照下さい。



<http://www.human.ac.jp/hn/>

修了・学位授与 修士(健康栄養科学)

建学の精神・沿革・組織図

人々の健康と幸福を支援する人材育成が私たちの目的です。

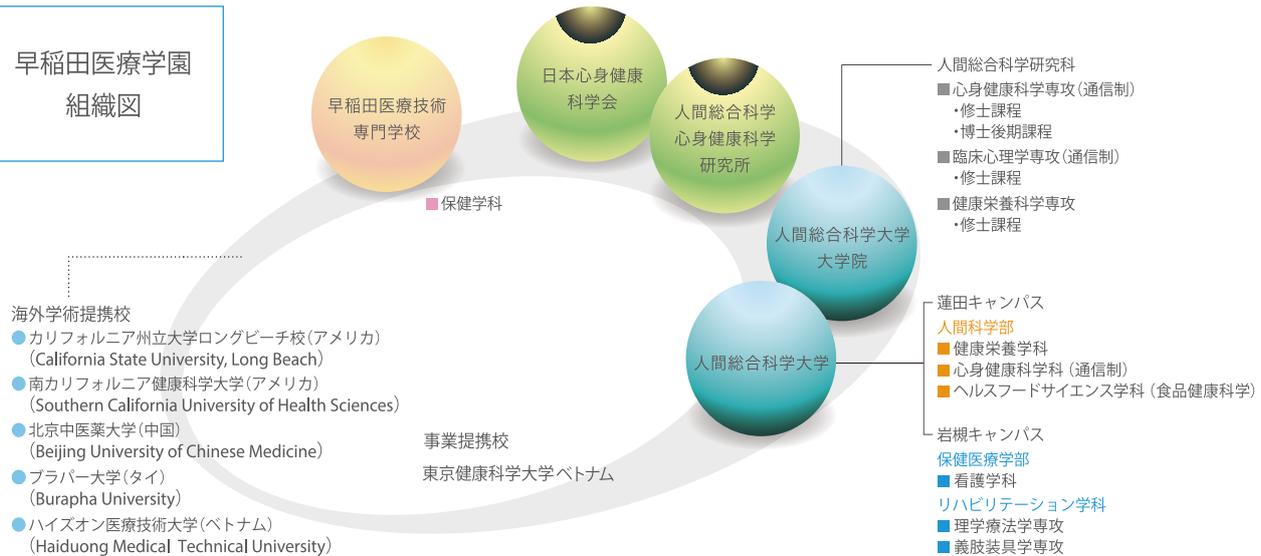
本学園は今日に至るまで一貫して「人々の健康と幸福を支援する人材の育成」を目的として歩みを進めてきました。「真に人間を理解し、自立と共生の心を培い、活力あふれる創造性と豊かな人間性を育む」という建学の精神のもと、教育研究を発展させ、多くの医療職者をはじめその関連業務に携わる人々の生涯学習の場を築いています。これからも社会のニーズに対応しつつ、保健医療福祉分野に貢献する人材の育成に努めてまいります。



人間総合科学大学 創業者
学校法人 早稲田医療学園 理事長 久住 眞理

沿革	
1953年	東京カイロプラクティック学院として創立 (開設学科)◎本科 ◎師範科
1972年	早稲田鍼灸専門学校に改称 (現人間総合科学大学鍼灸医療専門学校) (開設学科)◎東洋医療鍼灸学科 1991年4月 義肢装具学科を開設し、2003年 早稲田医療技術専門学校へ
1993年	早稲田医療技術専門学校を開学 チーム医療を担う人材の育成 (開設学科)◎看護学科 ◎理学療法学科 ◎作業療法学科 ◎義肢装具学科
2000年	人間総合科学大学を開学 人間科学部 人間科学科を開設
2004年	人間総合科学大学大学院を開設 人間総合科学研究科 心身健康科学専攻 修士課程を開設
2005年	人間総合科学大学 人間科学部 健康栄養学科を開設
2007年	人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 心身健康科学専攻 博士後期課程を開設 早稲田医療技術専門学校 保健学科を開設
2009年	早稲田医療専門学校を人間総合科学大学鍼灸医療専門学校に校名改称 人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 健康栄養科学専攻 修士課程を開設
2011年	人間総合科学大学 保健医療学部 看護学科、リハビリテーション学科(理学療法専攻/ 義肢装具専攻)を開設
2016年	人間総合科学大学大学院 人間総合科学研究科 臨床心理学専攻 修士課程を開設
2017年	人間総合科学大学 人間科学部 ヘルスフードサイエンス学科を開設 人間科学部人間科学科を心身健康科学科へ名称変更

早稲田医療学園 組織図



人間総合科学 心身健康科学研究所

本研究所では、人間を取り巻く環境の変化(刺激)が脳、自律神経、運動神経を介して
こころやからだ、さらには行動にどのような影響を及ぼすのかを研究・探究しています。

本研究所では、人間総合科学、心身健康科学の領域における先端的な研究を行っています。本研究所のスタッフは、得られた成果を学術団体などを通して国内外に発信するだけでなく、教材の開発や教育の場につなげて広く教え伝えています。また、心身健康科学に関わる教育プログラムを改善することや進展させることにも努めています。くわえて本研究所は、大学院教育との連携や日本心身健康科学会との共同研究等を図る場でもあり、スタッフや大学院生が中心となって、心身の相関を科学的に解明する実験研究や、地域や職場、学校、家庭をフィールドとする調査研究も実施しています。したがって本研究所は、心身相関の科学および心身健康科学の学問の発展をリードする重要な拠点として機能し、学問の開拓と普及に寄与しています。

文部科学省認可

人間総合科学大学

大学院 / 人間総合科学研究科

心身健康科学専攻・臨床心理学専攻・健康栄養科学専攻

人間総合科学大学

人間科学部 / 心身健康科学科・健康栄養学科・ヘルスフードサイエンス学科

保健医療学部 / 看護学科

リハビリテーション学科 理学療法専攻・義肢装具専攻

■連田キャンパス

〒339-8539
埼玉県さいたま市岩槻区馬込 1288

■東京サテライト

〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台 2-1-20 お茶の水ユニオンビル 5F

[お問い合わせ・資料請求]

TEL 048-749-6111 (土曜・日曜・祝祭日を除く12:00~17:00)

FAX 048-749-6110

e-mail:graduate@human.ac.jp

<http://www.human.ac.jp/>

人間総合

検索